

して老いていくものなのだと教えられたような気がします。

サービス協会の皆さんの身体の不自由な方々へのいたわりと優しさに満ちあふれた姿、また、介助を受ける方々の訪問日を心待ちにしている姿を拝見して心打たれ嬉しくもありました。

菅井先生の在宅福祉に関する貴重なお話は、私の社会参加への第一歩を踏み出すきっかけになりそうです。不安ながら何かを求めている多くの人々のために、社協がその役割を十二分に果たせるよう期待し、私も出来る範囲内でお役に立ちたいと思います。

体験学習習目を終ええて

塚 本 香 代 子

十一月二十一日の夕方は、最高の気分でした。小春日和のせいだけではなく、五回にわたる体験学習が無事終わったからです。両手を広げ深呼吸したら、肩の荷が下りていくのを感じました。これはちょっとオーバ

ーですが、それほど緊張して学習をしていたということなのです。

いつも狭い範囲しか見ないで、のんびりと生活している私に、この体験学習は、知らないことをたくさん教えてくれました。

保健福祉の仕事をしていらっしゃる看護婦さんや介助員さんの仕事ぶりをじかに拝見し、それを受けている人たちとふれあえたことは、多少のショックもありましたが、大変良かったと思います。

今回の学習で学ばせていただいたお仕事も、福祉の仕事のほんの一部だそうです。もっといろいろなこうした福祉のお仕事について学びたいと思いました。

菅井先生のお話は、体験されたことや、実際にあったことなので、大変興味深く聞かせていただきました。またも世間知らずを感じた次第です。

三浦市民となって半年経ち、やっと空気にも慣れてきたところですが、何か福祉活動のお力になれることはないかと思っている今日このごろです。

今回の体験学習にあたり、サービス協会の皆様には、いろいろお世話になりました。

体験学習習目を受又講して

田村 ヒ サ 子

「介助ボランティア体験学習」それは期待と不安が入り混じったものでした。どういう家庭に伺うのか。はたして自分がどういう姿勢や態度をもって対応すればいいのか：自分の問題として考えました。

いつかは高齢社会となる三浦市のためにお役に立ちたいと考え、受講してきた講習会の数々。今まで教えていただいたことをあれこれ思い出しながら、サービスクラスの看護婦さん、介助員さんに同行しているいろいろなお宅へ伺ったのです。しかし、はじめての訪問を笑顔で受け入れて下さった方々のおかげで不安はいっぺんに吹き飛びました。そして終始おだやかに介助実習をさせていただくことができました。

介助を必要とされる方、介助される方、双方の信頼関係の絆の強さに深く感動しました。体験学習を通して生きることの喜びと勇気を知らされよう気がします。

どんな仕事でも大変なように、いろいろな問題があると思いますが、より福祉に関する知識の必要性を強く感じました。そして少しでもお役にたてたことをうれしく思います。貴重な体験学習をありがとうございました。

これからの福祉のあり方を市民みんなで考えていけたらと思います。

相手の気持ちになつて

考える

佐藤 和 子

ハンディキャップを持つ人の身になってお世話をする事ができたら、その人は明るい心で障害に立ち向かうことができるでしょう。体験学習を受講するにあたっての心構えを学習し、協会専任者の方と共に訪問を開始しました。

最初の訪問は看護婦さんへの同行でDさん宅です。「ごめん下さい。」私と看護婦さんは声を合わせて言いました。しかし返事がありませんし、ドアもロックされています。

す。すると「あっ、廊下の戸が開いているからそこから入りましょう。」と看護婦さん。さすがに慣れた感じです。気を取り直してもう一度「ごめん下さい。」と言ってみました…。

そこに「いらっしやい。待っていましたよ。」と左半身マヒの奥さんからの声。さらに「今日は天気が良いくないので主人は口が重いんです。」と寝たきり状態のご主人の容体について、奥さんは続けざまに話されます。

看護婦さんは、前回訪問時からの経過を聞きながらご主人の看護を始めました。ご主人に笑顔で話しかけながら、身体の清拭、衣類の着脱、投薬、そして敷布の交換と全てがてきばきすすめられていきます。私も無我夢中でお手伝いさせていただきました。どれくらい時間が経ったのかは覚えていませんが、気が付くと「今度はいつ来て下さいますか。」の声を後にしていました。

「こんにちは。」「待ってましたよ。」こんなやりとりから家庭介助のAさん宅への体験学習は始まりました。「今日は天気が、良いので布団を干しましょう

う。」介助員さんのその一言で、その日の学習はスタートしたのです。トイレの掃除、衣類の洗濯そして、買い物。このご家庭は左腕骨折のご主人と、両足不自由の奥さんの二人暮らし。私はご主人のリードで夕食のおかずになる野菜をきざんだり、ゴミを所定の場所に出しました。

介助員さんは、奥さんのできることは出来るだけ自分でやってもらおうように心掛けています。それは、介助員の訪問によってサービス利用者の自立が損なわれてはいないからで、やみくもにお手伝いをすればいいというものではないことを知りました。お二人はまだまだこれからも頑張っていかなければならないのですから…。

その他にもハンディキャブ（車）の車椅子の介助などを体験させていただきました。

この体験学習に参加してからは、テレビの介護番組や新聞記事を無意識のうちに目にするようになり、身体清拭の際のタオルの活用方法から投薬に至るまで、いろいろなことに関心を持つようになりました。

高齢者人口が年々増える中で一段とクローズアップされてきた在宅介護問題は、介護する側も、される側もできるだけ必要以上の負担がかからないようにすることが大切だ

と思います。そして介護の方法については幾とおりもあることを知りました。また、何よりも実情に応じて、介護者を支える人たちが多くなることを願うとともに、私もできる範囲内で協力させていただきたいと思えます。

福祉は心の

キャッチボール

菅 原 晴 美

私が福祉に興味を持ち始めたのは、小学校三年生の時でした。学校の帰り道、友達と二人でお寺を通りかかった時です。一人の足の不自由なおばあちゃんが、足を引きづりやっと歩いていました。私と友達は何のためらいもなく、すぐそのおばあちゃんのところに行き手をさしのべました。幼いながらも、おばあちゃんがともうれしそうに「ありがとう。本当に助かったよ。」と言葉をかけてくれた時はうれしく思い、大人になったら人のために一生懸命尽せる人になろうと

決心したのです。十数年の時が流れ社会人になり、仕事を通じて福祉関係の方とお話しする機会もありましたが、専業主婦になった今では福祉に関心があるという気持ちだけにとどまっていました。

今回そんな私が勇気を出して応募したのが「介助ボランティア体験学習」なのです。

私は看護婦さん・保健婦さんそして介助員さんに同行して四件のお宅に伺いました。目の不自由な方、手足の不自由な方、身体を動かすことが困難な方、そこにはいろいろな病気や、怪我により苦しんでいる方がおられ、その方をささえ毎日看護なさっているご家族の方が、サービス協会の方の来るのを心待ちにしているのです。

私はこの体験学習に参加しているいろいろな方と出会い、ほんのわずかな時間ですがたくさん学ばせていただいたような気がします。

それはサービス協会の看護婦さんや、介助員さんを待つていらっしやる方がいて、また、そこへ伺い身のお手伝いのお世話をしたり、身体の状態に応じてリハビリ等のお手伝いをする方がいらっしやるということです。

看護（介護）をしている方に、少しでも心と体の休まる

時間を持たせてあげることができたら：それは素晴らしいことだと思います。

病院みたいに身体の悪い部分だけをみるのとは違い、心のつながりができているから、どこのお宅でもいろいろなお話を協会の方にされていきました。

福祉とはこんな会話のキャッチボールができるコミユニケーションを作り、身体の不自由な方が心を開いてくれ、その方の心の中だけに秘めた不安を取り除き毎日笑って過ごせる時間をプレゼントできるよう努力することなんだと思いました。

そして何よりも勉強になったのは、相手の立場になって物事を考えることの大切さです。

サービス協会の皆さん本当にありがとうございます。そして伺わせていただいたお宅の皆さん本当に不慣れなもので何もできなくてすみませんでした。皆さんがお元気になることを心からお祈りいたします。

ボランティア活動 10ヶ条

- 十、まわり、家族、近所の理解のある中で活動する
- 九、謙虚な気持ちで活動にあたる
- 八、自分の活動記録をつける（点検・反省の手がかりになる。）
- 七、たえず実動し、自主学習に心がける
- 六、行動にけじめをつける（時間・能力に無理のないように）
- 五、関わる人の秘密を守る
- 四、「どうせボランティアだから」という逃げを持たない責任感
- 三、自分を成長させる意識を持ち、細く長く続ける
- 二、関わる人のニーズに合わせていく
- 一、気がついた自分のできることから始める